

【記録】令和5年度第3回徳島県立池田支援学校学校運営協議会

1 日 時

令和6年2月21日（水）9：30～11：50

2 場 所

徳島県立池田支援学校美馬分校 会議室

3 日 程

9：00～ 9：30	受付
9：30～ 9：35	開会（会長挨拶）
9：35～10：40	学校運営協議会（前半）
10：40～10：45	休憩
10：45～11：45	学校運営協議会（後半）
11：45～11：50	閉会（事務連絡）

4 会次第

(1) 開会（会長挨拶）

(2) 協議

①「学校評価について」

- ・本校より説明
- ・分校より説明
- ・各委員からの御意見

②「地域と連携した取組について」

- ・本校より説明
- ・分校より説明
- ・グループ協議

(3) 会長及び学校長挨拶

(4) 閉会（事務連絡）

5 協議における委員からの御意見・御感想

(1) 学校評価についての報告

<学校運営協議会会長>

- ・学校は、子どもたちが家庭や地域でどういうふうに変化して成長していけるかについて力を入れてくれているように思う。

<本校PTA会長>

- ・地域との関わりにおいて、子どもが卒業後に地域へ自然と入っていけるように様々な取組がなされている。高等部では、仕事に就くためのセットアップをいかに行っていくかが大事だと思う。本人の特性や習熟度、可能性を見ていただくとともに、様々な活動をとおして向き不向きを捉えながら、才能や個性を伸ばしていけるようなご指導をこれからもお願いしたい。

< 箬蔵とことん店長 >

- ・学校内ではどうしても環境や活動などに馴染めないような子もいると思うが、そのような生徒へどのような対応をされているのか。
- ・また、個別の移行支援計画とは計画であるが、就労してからの途中経過や最終的にどうなったかがわかるような資料はあったりするのか。
- ・改訂後の個別の移行支援計画上段に「本人・保護者の願い」という項目があるが、これは最初に聞き取りを行っているのか。

< 事務局 >

- ・学習においてはグループ分けがされていて、個々の課題・特性・能力に合わせて、自分たちができるような活動を学部全体で行っている。個々の中では役割を分担して活動している。

< 事務局 >

- ・活動においてそれぞれ役割を持つことを大切にしている。集団活動が苦手な生徒については、Zoom（オンライン）を活用して画面越しに同じ作業や制作に参加・活動するといった対応事例もある。生徒の実態に合わせて活動できるようにしている。

< 事務局 >

- ・個別の移行支援計画とは卒業後生徒が関わる関係機関の方々・職場の方・保護者にサポート会議で共有する資料である。また、前段階として相談支援事業所や事業所の方に本人のことを知ってもらう資料として、プロフィール表を使って情報共有している。
- ・「本人・保護者の願い」の項目については、入学後に作成する「個別の教育支援計画」に同様の項目がある。毎年内容を確認し、変更があれば修正しながら3年間引き継いでいる。それを反映して、卒業時にこちらへ記載することとしている。

< 三好素人農事研究会代表 >

- ・様々な活動に非常に意欲的に取り組まれている。教員の専門性の向上というものは重要だと思う。徳島型メンター制とはどういったものか教えていただきたい。
- ・また、取組の内容において、メールの作成や公文書の作成などはどちらかというところ一般的なことであるので、専門性を高めるための内容を充実していくことが必要だと思う。

< 事務局 >

- ・一般的なメンター制は、メンターとメンティーが1対1であるが、徳島型メンター制は、管理職や他の先生方もメンターをバックアップしていくという体制をとっており、組織的な枠組みとなっている。
- ・内容については、一般的な内容に加え、生徒の指導に関する実態把握の仕方や環境設定についてベテランの先生から指導を受け、実際に生徒に対する指導の経過を見ながら、若手の教員を育てていった。今後も内容を検討し、若手教員の指導力向上やベテラン教員の指導ノウハウの継承につなげていきたいと考えている。

<事務局>

- ・本校でも、先生方が気軽に相談したり話あったりできるように計画的に年間を通じて、学びあう機会を設けている。

<池田学園施設長>

- ・高等部では進路に関して研修や実習が行われ、特に2・3年生は自分は何に適しているのか、したい仕事は何なのかと悩んでいる様子が見られた。しかし、新しい実習先を開拓してくださったりして様々な経験を積むことができたと思う。
- ・次年度より学園でも15歳以上を対象として移行支援計画を作成するようになる。現在も作成はしているが、次年度より必須になるため、学園の方でも協力をさせていただいて子どもたちの移行支援計画についての共有ができたらと思う。その中で学園の職員も実習と一緒に参加させていただき、事業所やグループホームの様子を見ることができればと考えている。

<ケアプラザ美馬施設長>

- ・ICTの活用について、タブレットで音声入力を行うことによって文字を書かなくても言葉を文字化することができ、文字が苦手であったりしても、機器を使うことで仕事に就けることを考えると、今後ICTを取り入れることは重要だと思っている。
- ・年々色々なことが変化していく中で、メンター制を施設でも取り入れているが徳島型メンター制の管理職がメンターをバックアップに入ったりと手厚い形になっていることが参考になった。そういう形であればメンターの負担も減り相談しやすい環境になると思う。
- ・移行支援計画での得意・不得意の情報は就労の際に参考になる。不得意なところを改善・克服するのではなく、得意なところを伸ばしていくことが就労への近道だと思っている。

<Next代表>

- ・本校・分校の事業内容や取組を見て、様々な学びがあると感じた。私としてはイベントへの参加を提案したいと思っている。美馬市のイベントであればご協力することができる。もし可能であればイベントに参加いただき、お客様とふれあう機会を設けていただきたい。イベントは日曜日が多いので保護者や先生方のご負担になると思うが、他の事業者さんの仕事ぶりを見たりすることで、やってみたいことの発見にもつながるのではないだろうか。

<事務局>

- ・学校内でイベントへの参加について話し合ったが、日曜日の参加となると「教員の出勤や生徒の登下校などを調整」、「生徒の移動方法」といった課題がある。ただ、実現したいという思いもあるので、もう少し校内で検討し、年に1回といったところからでもスタートできればと思っている。

<分校PTA会長>

- ・清掃活動などで地域の方々と接する機会も増えて、小・中学校で経験できなかったことを支援学校でさせていただいた。子どもも自分の中で世界が広がったのではないかと思う。支援学校に入学して良かったと思える学校生活を送り、卒業後も振り返った時に良かったなと思えるようになってほしい。美馬分校に通う私の娘も笑顔が増えたと感じている。色んな人と接することができ、経験をさせていただいたことで楽しそうに通っている姿が見れて良かったと思っている。

<鳴門教育大学教職大学院准教授>

- ・評価結果を見て妥当だと思った。
- ・本校の学校評価において、各学部で子どもにどんな力をつけようとしているのが明確にされている点、また、小・中学部、高等部のすべてで重点目標、評価指標、活動計画、活動計画の実施状況と評価指標の達成度の詮索が非常に相互によく関連している点が良い。
- ・次年度に向けた学校評価の質を高めるための改善点として2点あげる。

(1点目)

- ・本校において、「中学部の生徒全体に対してどういう力を育むのか」ということを重点目標に明記してはどうか。
 - 重点目標には小・中・高とつながる学びの推進とされており、小学部では社会性、コミュニケーション能力を重点的に育み、高等部では課題対応能力を重点的に育むことが明確にされている。中学部では、学習の集団参加が難しい生徒に対して参加の質を高めることが記されているが、生徒全体に対してどのような力を重点的に育むのかが明記されていない。
 - 小学部で培われた児童の社会性やコミュニケーション力を基に、中学部では、生徒にどのような力を育むことを重点目標とするのか。
 - 中学部でどのような力を育むことにより、高等部において、生徒の「課題対応能力」を高めることをより可能にしていくのか。

(2点目)

- ・美馬分校の重点目標において、「美馬分校でどういった力を育むのか」ということを明記されてはどうか。そして、本校の学校評価を参考として、そのような力が高まったかどうかを評価指標にしてはどうか。
 - 「教員が良い方向に変わった」はあるので、「子どもがどう変わった」というものがあれば良い。例えば、分校で大切にされている自己肯定感や、地域に役に立つ力、役割・協力する力などが候補になるのではないだろうか。
- ・課題解決について評価が明確になっていけば、力をつけるために地域と学校がどのように連携していけば良いのかということが考えられ、結果として、地域全体で力をつけていくことにつながる。

<池田支援学校長>

- ・多くの地域資源を活用することによって校内外で様々な活動が実施できている。地域とのつながりによって学びの場が広がり、子どもたちの自立と社会参加に向けて進んでいると思う。

(2)グループ協議

<本校の報告>

- ・ダムカレー用のカレー皿を学校の生徒が作った。手作りなため現在は皿の数が足りない状況ではあるが、近々行われる三好市のイベントで、ダムカレーを提供させていただく予定になっている。
 - 田笠委員から学校へ井川町に在住の陶芸家の先生を紹介していただき、現在もつながりを持つことができている。今後、学校においてご指導していただけるのではないかと考えている。
 - 永楽荘にも陶芸用の窯があることを教えていただいた。現在、学校では校舎工事の関係で陶芸活動ができない状況にあるため、今後、永楽荘ともつながりを持つことができれば良いと思う。
- ・実習や清掃活動においては博愛会にお世話になり、箸蔵とことんでも清掃や就業体験を行わせていただいた。
- ・地域で栽培したサツマイモを利用してドーナツを作り、校内の喫茶店で販売した活動から、「校内だけでなく箸蔵とことんでも、喫茶店を開いてもいいですよ」との話をいただいた。土日のイベントに関しては、なかなか学校からの参加は難しい状況であるが、年度末に事前にスケジュールに計画しておき、有志の参加ということで学校と学園とで協力をして、参加を検討していく。

<分校の報告>

- ・みまカフェファームで野菜を作っているが、戸島委員も農業を営んでいることから、できることがあれば協力しますとの心強いお言葉をいただいた。
- ・戸島委員はイベントにもたくさん携わっており、イベント開催において必要となってくるような仕事内容を学校の方に依頼することで協力できないかという話もいただいた。仕事を通して、子どもたちは「自分の向き・不向きを把握する」、「様々な仕事を知る・経験する」ことにつながるため、依頼を引き受けることは可能であると考えている。
- ・外部のイベント参加については、一度生徒たちにアンケートをとってみてはどうかという提案をいただいた。子どもたちの実態やニーズを知る機会になるのではないかと考えた。
- ・北岡委員からは、コロナの影響もあり、デイサービスの施設に子どもたちが訪問する機会が減ってきている。利用者の方々も寂しい思いをしているので、また今後訪問いただき、集団でも個別でも構わないので一緒にレクリエーションをするような機会を持っていただきたいとのことであった。